分科会 10　長期実務実習元年
―実りある実習を求めて―

W-10-01 望ましい医療人教育

木下（きのした）　牧子（まきこ）

医療法人愛の会 光風園病院　副理事長

これまで医療人教育という言葉はあまりなじみのある言葉ではなかった。医師、看護師、薬剤師などが、互いにあまり交流することなく、それぞれの分野で独立して専門家教育に携わってきた。それが今なぜ、医療人教育という言葉に注目が集まるようになったのか。そこには二つに背景があるように思う。一つには、医療に対する社会の要求が非常に高くなり、個々の医療職だけでは対応できない、つまりチーム医療の重要性が増してきたことがある。もう一つの要因は、前者の裏腹でもあるが、医療人：医療にかかわるすべての人々の職業倫理の確立が強く求められるようになってきたことにある。

薬学教育が大きく変化し、臨床能力の充実が求められている中、本基調講演では、このような社会のニーズに応えることを求められている医療人プロフェッショナリズムについて概説し、そのプロフェッショナリズムを次の世代にどう伝えてゆくのか、あるいは私達自身がどう消化しどう進化させてゆくのかを考えてみたい。

2002 年２月、アメリカと欧州の内科学会は共同で新ミレニウム医師憲章を発表した。この憲章はヒポクラテスの誓いを医師のプロフェッショナリズムの観点から見直したものとも言われており、基本３原則として１）患者福利優先の原則、２）患者の自律性に関する原則、３）社会正義の原則を挙げ、さらに具体的な 10 の責務について述べている。看護師をはじめとする他の医療職においても同様の職業倫理がかかげられているが、私は医療人のプロフェッショナリズムとは、利他主義：患者の利益を再優先とすること、専門職としての知識・技能を高いレベルで保つこと、社会的責任を果たすことの３点に集約されるのではないかと考えている。医師の教育を振り返ると、教育という名の下で行われてきたことは主に知識と技能の習得であった。他方カリキュラムに明記されてはいるが、教育方法として確立していない医師としての姿勢や倫理観は、主に hidden curriculum として現場での On the Job Training: OJT で養われてきたのが現状である。患者の利益を最優先することや社会正義を貫くことは言葉で述べることは簡単であるが、臨床現場では様々な複雑な背景や利害の衝突もあり、答えは一つではない。その中で、少しでも患者によりそい、患者とともにより正しい判断を行い、より望ましい結果をもたらすように努力する能力を養うためには、臨床現場での教育、古くからおこなわれてきた「背中をみて育つ」教育手法が依然として重要であることは間違いない。

いわゆる OJT での教育手法は医師の教育現場でも確立はされていないが、しかし現場では hidden curriculum として多くの医師たちを育ててきた。今後は少しでもその hidden の部分を言語化することで、より多くの教育現場に応用できることをめざしたいと思っている。